

Medical Management Specialist

MMS **NEWS**

2010
12/1
創刊号

●発行/一般社団法人
日本医療経営実践協会
(JMMPA)
〒101-0033 東京都千代田区神田岩本町4-14
神田平成ビル7F
●編集/日本医療企画
●毎月1日発行

お問い合わせ先 一般社団法人 日本医療経営実践協会 事務局 TEL.03-5296-1933 FAX.03-5296-1934 http://www.jmmpa.jp/



東京第2会場(ベルサール神田)での試験前の様子。当会場では168名が受験した。

医療界待望の 初の「医療経営士3級」 資格認定試験、390人が合格

一般社団法人日本医療経営実践協会(現代代表理事 吉原健二・財団法人厚生年金事業振興団顧問)は、9月23日、第1回「医療経営士3級」資格認定試験を開催した。当日は全国12カ所の試験会場で合計503人が受験。このうち390人が合格し、10月8日に受験者番号が発表された。

「医療経営士」は、今年7月に設立された日本医療経営実践協会が認定する新しい資格として誕生。
本協会では、「医療経営士」とは、「医療機関をマネジメントするうえで必要な医療および経営に関する知識と、経営課題を解決する能力を有し、実践的な経営能力を備えた人材」と定義しており、これからの医療現場を担う重要な人材だと位置づけている。「医療経営士」は、医

療経営の基礎知識を習得している「3級」、医療経営の体系的知識を習得している「2級」、医療経営における戦略策定・実行力を習得している「1級」に分けられており、9月23日には3級資格認定試験が実施された。
東京、名古屋、大阪、福岡、金沢の各都市に設けられた計12カ所の試験会場では、503人の受験者が挑戦。午前10時15分に一斉に開始された。試験は80分の時間内で、マークシート方式による全50問が出題された。出題範囲は「医療サービス分野・基礎」「医療人としての基礎知識(医療界・医療機関の構造、医療関連産業論)」と「医療サービス分野・総合」「医療史(医療法規・医療行政史、医療経営史、診療科目・医

療技術の進化の歴史)」「医療法規・医療行政の基礎知識」「医療サービス概論(患者サービス論)」「医療人としての倫理(生命倫理、医療倫理)」。
試験の結果、390人が合格得点30点以上を獲得し、晴れてわが国初の「医療経営士3級」資格認定試験に合格した。合格者は、本協会への会員登録申請後、本協会による審査を経て「医療経営士3級」資格が認定される。なお、初めての認定試験のため難易度が関心を集めたが、第1回認定試験の合格率は77.5%。この数値だけ見ると「易しい」と感じられるが、試験直後は「難しかった」という感想が聞かえ、50点満点の到達者はゼロだったことから、試験対策は欠かせないだろう。

療経営の基礎知識を習得している「3級」、医療経営の体系的知識を習得している「2級」、医療経営における戦略策定・実行力を習得している「1級」に分けられており、9月23日には3級資格認定試験が実施された。
東京、名古屋、大阪、福岡、金沢の各都市に設けられた計12カ所の試験会場では、503人の受験者が挑戦。午前10時15分に一斉に開始された。試験は80分の時間内で、マークシート方式による全50問が出題された。出題範囲は「医療サービス分野・基礎」「医療人としての基礎知識(医療界・医療機関の構造、医療関連産業論)」と「医療サービス分野・総合」「医療史(医療法規・医療行政史、医療経営史、診療科目・医

◆第1回「医療経営士3級」認定試験 結果概要

| | | |
|---------|-------|------------------|
| ① 受験申込者 | 529人 | (事前エントリー登録610人) |
| ② 受験者 | 503人 | (受験率(②/①)=95.1%) |
| ③ 合格者 | 390人 | (合格率(③/②)=77.5%) |
| ④ 合格得点 | 30点以上 | (50点満点/50問、1問1点) |
| ⑤ 最高得点 | 48点 | (同) |

(1) 年齢別構成

29歳以下 59人(11.7%)
30歳以上~39歳以下 182人(36.2%)
40歳以上~49歳以下 109人(21.7%)
50歳以上~59歳以下 41人(8.2%)
60歳以上 3人(0.6%)
その他(団体受験等) 109人(21.7%)

(2) 男女別構成

男性 403人(80.1%)
女性 100人(19.9%)

(3) 職業別構成

病医院勤務者 252人(50.1%)
医療関係企業勤務者 169人(33.6%)
大学・短大生 18人(3.6%)
その他 64人(12.7%)

(4) 都道府県別構成

東京都 132人(26.2%)
大阪府 50人(9.9%)
埼玉県 43人(8.5%)
福岡県 35人(7.0%)
神奈川県 33人(6.6%)

新発売! ポケットサイズのハンディタイプ 経営実践手帳が誕生!!

必携 医療経営手帳 2011年度版

詳しくは [医療経営手帳](#) [検索](#)

●監修: 一般社団法人 日本医療経営実践協会
●編集: 「最新医療経営 Phase3」編集部
●発行: 日本医療企画
価格: 1,100円(税込)
サイズ: B6変型(タテ180mm×ヨコ89mm)
頁数: 288
※一般社団法人 医療経営実践協会の会員には無料で交付されます。



3大ポイント

- 月初めの「今月の経営チェックポイント」
月ごとの経営強化ポイントをチェック欄つきで掲載。毎月初に見ることで、その月の行動指標とすることができます。
- 1日1言「経営 金言・格言」
現役の医療人(理事長、院長、医師、看護師、事務長等)、企業経営者をはじめとする各界のリーダー、著名人、歴史上の人物の経営にまつわる金言・格言、企業の行動規範・社是を1日1言収録。
- 巻末付録 ①医療データ ②医療経営 理論とポイント集 ③医療経営のための用語集

第1回理事会を開催。新たな人事を決定

代表理事には元厚生省事務次官の吉原健二氏が就任

日本医療経営実践協会では11月1日に第1回理事会を開催し、設立趣意の表明および元厚生省事務次官の吉原健二氏の代表理事就任をはじめとする、新たな人事を決定した。



第1回理事会では、9月23日(木)に行われた第1回「医療経営士3級」資格認定試験の実施報告や、次回以降の試験実施スケジュールの確認、地域支部会の研究会活動、会員サービスなどについての議論が行われた。

「現在の医療の危機的状況を生んでいる一因は、医療機関の行政への過度な依存による運営から脱却できていないことにあるのではないかと。本来、政策とは現場から生まれるものであり、足りないところを行政が補完すべき

である。その基盤となるものが経営である。医療と経営が車の両輪のごとく機能することにより、医療機関は存続し、わが国の医療は充実する。医療経営に特化した人材育成、養成は時代の要請なのである——設立代表理事の林諄氏による協会の発足の趣意表明を皮切りに、理事たちの討議は熱を帯びた。経営人材のあり方、育成方法やキャリアパス等について活発な意見交換が行われた。

また、新人事において、設立発起人の林氏よりバトンを受け、元厚生省事務次官の吉原健二氏、代表理事代行に元厚生労働省大臣官房審議官の皆川尚史氏が就任した(表)。

代表理事の就任挨拶の後、皆川代表理事代行や小林利彦理事、清水康之理事、多田宏理事が次々と登壇。協会が一丸となって、医療経営士の育成に全力を注ぐことにより、さまざまな問題を抱えるわが国の医療の改善および充実に寄与しようと呼びかけた。

この懇親会には、『医療経営士テキスト』シリーズ(日本医療企画)の総監修者である東京医科歯科大学大学院教授の川淵孝一氏をはじめ、多数の編著者が参加。会場では、それぞれの研究分野の現状報告がもたらされると同時に、医療経営士の育成について理事らとも活発に意見を交わしていた。長年、行政や臨床、経営など、さまざまな側面から医療界の

発展に貢献してきた理事と、医療機関や研究機関、大学などの医療経営の第一線で活躍中の編著者が一体となる機会ともなった理事会と懇親会。今後の医療経営士の発展を感じさせる記念すべき1日となった。



表 日本医療経営実践協会 役員一覧 (理事氏名五十音順)

Table listing the board members of the Japan Medical Management Practice Association, including names like 吉原健二, 皆川尚史, 相澤孝夫, etc., and their respective titles.

吉原健二代表理事 就任挨拶

日本の医療の発展を目的に協会一丸となって邁進していこう



理事会での選任を受けて、このたび本協会の代表理事を務めることになりました。医療の現場では医師や看護師、技師などの資格を持つ専門職の方々が活躍されています。そこに事務部門の資格を持った専門家を育成するという本協会の設立趣意は、近い将来、必ず求められることであり、日本全体の医療の質の向上と効率化が図ることができる、非常に意義深い取り組みだと考えています。日本の医療の発展に貢献する、本協会の設立趣意や狙いに共感し、代表理事をお引き受けさせていただいた次第です。

次代を見据えた素晴らしい取り組みである本協会の事業に、数多くの人たちに賛同してもらえるように、代表理事として先頭に立って動きかけていく所存です。

9月23日に開催された第1回「医療経営士3級」資格認定試験では500人以上が受験し、うち390人の方が合格されました。来年3月には第2回の3級資格認定試験、6月には2級の資格認定試験の開催も決定しているなど、本協会には驚くほどのスピードをもって動き始めています。今後の医療界の発展に向けて、皆さんで力を合わせて進んでいきましょう。

よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 日本医療経営実践協会 主催 第2回「医療経営士3級」資格認定試験のご案内

Advertisement for the 2nd 'Medical Management Practitioner 3rd Level' qualification exam, including dates (March 13, 2011), fees (8,400 yen), and contact information for the Japan Medical Management Practice Association.

合格者・関係者に聞く

医療経営士の資格を自分たちはこう使う!

医療機関や関連企業、大学および行政関係者など総勢503人が受験した第1回「医療経営士」3級資格認定試験。彼らはどんな目的を持って、試験にチャレンジし、今後この資格を日常業務に、どのように活かそうと考えているのか。当事者である合格者や関係者に話を聞いた。

杉田雄二 医療経営士育成を通じ サービスの充実をめざす

株式会社メイカルステージ 代表取締役社長



当社は、転職を希望する医師と医師を求め医療機関をつなぐ人材サービスをメインに、①より多くの医師がいきいきと働けるステージ、②医療機関が価値を高めるステージ、③患者やその家族たちの笑顔に満ちあふれたステージ—という3つのステージの実現を目指しています。

これを実現するためスタッフには、医療界の状況に鑑みながら、求人依頼のあった医療機関の現状や進もうとしている方向性、求める医師像、転職を希望する医師の行いたい医療やキャリアパスなどを多角的に分析し、医師と医療機関の相互のニーズをマッチングさせる能力が必要になります。

その能力育成の一環として、医療経営士テキストシリーズを使った社内勉強会を行っています。スタッフの努力もあり第1回3級資格認定試験では27人が合格できました。

事業の性質上、院長や事務長などの経営層の方々と面談する機会が多いので、医療経営

小竹敦司 スタッフの専門知識を深め 提案型営業の強化を図る

日本光電工業株式会社 営業本部コンサルティング&ソリューション部 課長



当社は脳波計や心電計、生体情報モニタ、AEDなどを提供する総合医用電子機器メーカーです。その事業の特徴は従来の販売営業という枠にとらわれず、費用対効果の提示を含めた、医療機関の経営改善につながる形で必要な医療機器を提案するという、コンサルティング型の営業を

実践していることです。そのため当社では従来からスタッフの能力育成を目的に、「医療経営」をテーマにした各種社内研修に力を入れてきました。その質を担保するには、やはり第3者からの評価を受けることも必要と考え、今回社員研修プログラムの一つとして医

療経営士3級資格認定試験の受験を採用しました。第1回資格認定試験には42人が受験しました。

今回受験したのは主に医療機関の営業支援を行うコンサルティング部門のスタッフですが、第2回資格認定試験以降は販売会社(営業所)などの現場スタッフに対しても受験を促して

に関する専門知識は不可欠です。医療経営士テキストを学ぶことで、円滑なコミュニケーションはもちろん、経営に対するアドバイスもできるようになればと期待しています。

もちろん3級合格で終わるのではなく、継続して勉強していくとともに、医療現場のかかわりの深いスタッフは最低2級、マネジャークラスには1級をチャレンジさせていきたいと考えています。

山内綾子 経営人材として医療の発展に貢献していきたい

山内クリニック 事務



私は現在、父が院長、母が事務長を務める内科・漢方診療をメインとした地域のクリニックでレセプト関係の医療事務から受付業務まで事務長補佐的な職務に従事しています。

父が開業する以前は病院の事務部門に勤務し、病床管理や医療安全などに携わっていたこともあり、もともと医療経営やマネジメントに関して「勉強したい」という想いを抱いていました。そんなときに偶然インターネットで出会ったのが「医療経営士」でした。病院勤務時に間違った知識や、医療法務をはじめ日頃から準備しておくべきことが体系的かつ現場業務に則した形で説明されていることに感動しました。

医療経営を取り巻く環境は年々、厳しくなっていますので、医療機関の発展や質の高い医療サービスを継続的に提供していくためには経営を担うスタッフによるマネジメントが欠かせません。こうした能力を評価した専門資格が今や事務部門には必要だと考えています。

今回の医療経営士3級の合格に甘んじることなく、今後は2級、そして1級の合格をめざして勉強しながら、その知識をベースに、経営面から医療機関の発展に貢献できる人材になりたいと思っています。

最後になりましたが、この場を借りて、医療経営を体系的に学べるテキストや資格を作っていただいた日本医療経営実践協会の皆様に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

販売会社(営業所)ごとに医療経営士に関する勉強会を立ち上げて、日々研さんし、マネジャークラスはもちろん、現場の最前線にいるスタッフ全員に受験させていきたいと考えています。

優れた医療機器の提供はもとより、医療経営士をベースにスタッフの能力育成に努めることで、厳しい環境下に置かれている医療機関の一助となることをめざしていく所存です。

「第2回 医療経営士 3級資格認定試験」直前 短期集中合格講座のご案内

★ 本講座では、『医療経営士テキスト初級』全8巻分執筆者が講師を務め、短期集中講座で全8巻分の頻出重要ポイントを徹底的に解説します!

講師 **木村憲洋**(高崎健康福祉大学 健康福祉学部医療情報学科 准教授) **箕岡真子**(東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野 客員研究員、箕岡医院内科医師)

開催日 **2011年2月19日(土)、20日(日)**

会場 **三鷹産業プラザ703,704,705会議室**

住所 **三鷹市下連雀3-38-4 (JR中央線・総武線 三鷹駅南口より徒歩約7分)**

受講料 **32,000円(税込)** ※団体参加割引有
 テキスト代 **21,000円(税込)** ※『医療経営士テキスト初級』全8巻分
 詳しい資料をお送りさせていただきます。下記までお問い合わせください。

(株)日本医療企画教育事業本部 TEL.03-3256-2863 FAX.03-3256-2809

News 第1回「医療経営士3級」資格認定試験 出題傾向分析と「第2回試験」予想 医療法・医療行政の仕組みの理解が医療経営実践の基本 大局の把握が合否の分かれ目

第1回「医療経営士3級」資格認定試験の合格発表(10月8日)を受け、「最新医療経営フェイズ3」編集部が独自取材により分析を行った。

データ出典：一般社団法人 日本医療経営実践協会
分析・予想：「最新医療経営フェイズ3」編集部

●出題傾向分析

出題テーマ分析

- [医療サービス分野・基礎]
 - ①医療界・医療機関の構造：10問
 - ②医療関連産業論：8問
- [医療サービス分野・総合]
 - ①医療史(医療法規・医療行政史/医療経営史/診療科目・医療技術の進化の歴史)：9問
 - ②医療法規・医療行政の基礎知識：20問
 - ③医療サービス概論(患者サービス論)：2問
 - ④医療人としての倫理：1問

医療サービス分野・基礎

①では、医療関連職の職務、医療機関の収入構造、診療報酬の仕組み、わが国の医療提供体制など、医療経営及び医事の基本知識が問われている。難問はなかったが、4問出題された診療報酬の仕組みの正答率が低調であった。診療報酬の基本を学ぶにおいては、基本

診療料と特掲診療料の構造など、基本的な体系を理解しておきたい。

②では、検査・製薬会社と医療経営の関連、医療事務スタッフの職務と課題、医療サービス等の外部委託と内部提供、医療機関の資金調達、及び医療時事(人口10万対の病床数の最も多い都道府県、ドラッグ・ラグ、医薬品業界2010年問題などの解釈)や医療経営用語(1日平均入院患者数、平均在院日数、病床利用率)などの医療経営に関する理解まで幅広く問われている。

医療サービス分野・総合

さまざまな関係機関との連携が重要なだけに、基礎知識は必須だ。

①では、(世界の)病院医学の変遷、患者と病室(病院管理における建築学)、診療科の分化、医療技術の進歩の4分野から出題されている。診療科の分化は、現代医療における必須知識だけに、難易度は低かったようだ。医療行政の変遷は医療経営の変遷ともいえる。将来を展望する上でも歴史や背景を押さえておくのは有益だ。

②では、医療法規と医療行政から10問ずつの出題。医療法規は医療法が規定する「医療提供の理念」という基礎知識から、省令・条例・規則・告示・通知のちがいが、病院Aを患者が受診した場合(例文)に及ぶ医療関連法規など、実際の運用を意識した応用問題まで広く問われていた。応用については、医療機関における日常業務との関連が深いだけに、知識の習得は欠かせない。一方、医療行政では救急医療体制、レセプトオンライン化、医師偏在問題、療養病床など、主に喫緊の政策課題に関連するテーマが出題されている。この分野も、日頃の意識づけが大切で、ニュースや新聞など幅広い範囲の情報収集を行う必要があるだろう。

●「第2回試験」出題予想

「第1回医療経営士3級試験」において出題の多かった「医療法規」のテーマより3問を予想(解答は、一般社団法人 日本医療経営実践協会のホームページにアップします)。

問 医療法で病院、診療所のほかに「医療提供施設」として定められているものについて、以下の選択肢のうち適切なものを1つ選べ。

- [選択肢]
- ① 介護老人保健施設
 - ② 訪問看護ステーション
 - ③ 助産所
 - ④ 施術所
 - ⑤ 調剤薬局

問 病院・診療所と、そこに勤務する職員(労働者)は「労働契約」の関係にある。これについて労働基準法が規定する内容で、以下の選択肢のうち適切でないものを1つ選べ。

- [選択肢]
- ① 労働基準法は労働者の権利と、使用者の義務を定めており、「使用者」とは病院・診療所では理事長・院長のほか事務長などが該当する。
 - ② 使用者の都合により労働者を休業させた場合、休業させた所定労働日について、平均賃金の6割以上の休業手当を支払わなければならない。
 - ③ 1日8時間、1週間40時間を超えて労働させてはならない「週

40時間労働」が原則だが、労働者と使用者との間で事前協定を結び、労働基準監督所に届け出ていれば、特定の週に40時間以上の労働が認められる。

- ④ 変形労働時間制を採用し、1カ月単位の「ローテーション表」などで各日の始業・終業時間や休日などを定めている場合、割増賃金の支払義務が発生する時間外労働や休日労働はそれに従って各人ごとに異なる時間・日に発生することになる。
- ⑤ 使用者は産前産後、育児時間、生理日などについて女性労働者から請求があった場合、有給で休暇・休業を与えなければならない。

問 医療機関が医療廃棄物の処理を処理業者に委託する場合、遵守しなければならない項目について、以下の選択肢のうち適切でないものを1つ選べ。

- [選択肢]
- ① 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく許可を有する処理業者に委託しなければならない。
 - ② 医療廃棄物を引き渡す際に、定められた様式による産業廃棄物管理票(マニフェスト)に必要事項を記入して交付することが義務付けられている。
 - ③ 医療機関の管理者は、「特別管理産業廃棄物管理責任者」を設置し、廃棄物の取扱いに関する管理体制を整備しなければならない。
 - ④ 医療機関は排出した廃棄物が最終処分されるまでの間、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を保存しなければならない。
 - ⑤ 医療廃棄物の処理を委託する場合であっても、医療機関は廃棄物の排出事業者としての責務を負う。

緊急出版!

第1回

「医療経営士3級」資格認定試験

問題&解答・解説

第1回(2010年9月23日実施)「医療経営士3級」資格認定試験の全50問についての問題と、出題傾向分析および解答・解説を掲載しています。

- 編集：「医療経営士」資格認定試験対策委員会
- 協力：『最新医療経営 Phase3』編集部
- 発行：日本医療企画

- 価格：1,050円(税込)

- A4判/100頁

詳しくは [医療経営士3級 認定試験](#)

[検索](#)

医療経営士3級
資格認定試験
問題&解答・解説

